

図書館協議会 令和7年度第4回定例会 会議録

【日 時】 令和8(2026)年3月19日(木) 午後3時00分～4時25分

【場 所】 中央図書館(3階)研修室1

出席委員 菊池信太郎議長、赤沼順子副議長、石田陽子、杉本ゆか
鈴木祐介、中畠由子、古河志津子、吉田果南、渡部由美子

欠席委員 安齋健一、サンジェイ・パリーク、鈴木英夫、杉本ゆか、
芳賀チエ子、藤田久実子、新田聖子

【事務局】 中央図書館長(若穂 豊) 中央図書館副館長(菊地高之)
管理係長(井上 薫)、総合サービス係長(橋本 果)、
希望ヶ丘図書館長(佐久間一徳)、安積図書館長(濱尾 繁)
管理係 今泉 総合サービス係 仲田

【会議の概略】(司会:管理係長)

【傍聴許可】 郡山女子大学短期大学部教授、学生各1名の傍聴希望があり、許可した。

1 開会	- 出席委員は9名、定足数を満たし有効に成立 - 議事次第・資料配布の確認								
2 挨拶	- 本日の会議では、これまで議論されてきた「第五次子ども読書活動推進計画」のまとめを確認し、承認を得る。 - 本日の会議は、この計画案を委員に審議してもらうための重要な場であるとし、各委員の協力を求めた。								
3 議事 (1) 報告事項	(ア)令和7年度1～3月の事業報告について <table> <tr> <td data-bbox="181 1505 459 1729">橋本係長</td><td data-bbox="459 1505 1362 1729"> - 図書館で活動する新規ボランティア向けの講座を毎年1回実施している。 - 令和7年度は14名が参加した。特に、11月に開設されたオンライン分館で活動するボランティアを主に募集した。 - 参加者は令和8年度から活動を開始する予定。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="181 1729 459 1818">希望ヶ丘館長</td><td data-bbox="459 1729 1362 1818"> 「おはなし会」「読書推進講演会」「本の展示」を実施した。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="181 1818 459 1998">安積館長</td><td data-bbox="459 1818 1362 1998"> 「おはなし会」を実施した。 - 本の展示として、「3月の日」の展示および追悼展示を行った。 - 映画会を1回開催し、通常より多い参加者があった。3月の記念に関するテーマが参加者の興味を引いたと分析している。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="181 1998 459 2072">富久山館長 (代理:サービス係長)</td><td data-bbox="459 1998 1362 2072"> 「おはなし会」「おひるねアートとえほんの会」「本の展示」などを実施した。 </td></tr> </table>	橋本係長	- 図書館で活動する新規ボランティア向けの講座を毎年1回実施している。 - 令和7年度は14名が参加した。特に、11月に開設されたオンライン分館で活動するボランティアを主に募集した。 - 参加者は令和8年度から活動を開始する予定。	希望ヶ丘館長	「おはなし会」「読書推進講演会」「本の展示」を実施した。	安積館長	「おはなし会」を実施した。 - 本の展示として、「3月の日」の展示および追悼展示を行った。 - 映画会を1回開催し、通常より多い参加者があった。3月の記念に関するテーマが参加者の興味を引いたと分析している。	富久山館長 (代理:サービス係長)	「おはなし会」「おひるねアートとえほんの会」「本の展示」などを実施した。
橋本係長	- 図書館で活動する新規ボランティア向けの講座を毎年1回実施している。 - 令和7年度は14名が参加した。特に、11月に開設されたオンライン分館で活動するボランティアを主に募集した。 - 参加者は令和8年度から活動を開始する予定。								
希望ヶ丘館長	「おはなし会」「読書推進講演会」「本の展示」を実施した。								
安積館長	「おはなし会」を実施した。 - 本の展示として、「3月の日」の展示および追悼展示を行った。 - 映画会を1回開催し、通常より多い参加者があった。3月の記念に関するテーマが参加者の興味を引いたと分析している。								
富久山館長 (代理:サービス係長)	「おはなし会」「おひるねアートとえほんの会」「本の展示」などを実施した。								

(質疑)	
菊池議長	おはなし会のボランティアの増減について
橋本係長	・ 少しずつ増えているが、辞める人もいるため、全体の人数は約 100 名強で推移している。 ・ ボランティアは郡山市図書館で一括登録後、中央、希望ヶ丘など活動拠点を分けて活動している。今年度新規登録者は新館(富田・逢瀬・片平)で活動してもらう。 ・ 年に 1 回、登録者向けにスキルアップを目的とした研修会（ステップアップ講座）を実施している。
(イ)令和 8 年度予算について	
管理係長	子ども読書活動推進事業費：7 年度とほぼ同額。各種講演会、ビブリオバトルなどを実施する。 ・ 図書館情報システム再構築事業費：5 年に 1 度のシステム更新に伴う委託事業費が主となる。 ・ 図書館協議会費：委員報酬など。令和 8 年度は 2 年に 1 度の視察がないため減額となる。 ・ 図書館管務費：図書館の管理運営経費（医療費、消耗品費等）。例年とほぼ同額。 ・ 図書館維持管理費：光熱水費、施設管理委託料など。近年の社会情勢（光熱水費や人件費の高騰）を反映し、増額となる。 ・ 資料整備事業費：図書購入費、新聞製本費など。例年とほぼ同額。 ・ 奉仕活動事業費：学生アルバイトの報酬、図書運搬費、電子図書・電子雑誌の費用、レクチャーコンサート経費、各分館の購入費など。学生アルバイト報酬や印刷製本費、電子書籍利用料の増加により、一部増額となっている。
中央館長	・ 図書館の予算、特に図書購入費や配送事業費は、減額されることなく比較的スムーズに承認されているとの認識が示された。
菊池議長	・ 「文化の要である図書館の予算規模としては小さい。もっと手厚い予算が付き、多様な活動ができるようになれば良い（個人的意見）」
(ウ) その他 郡山市図書館条例および規則の一部改正案について	
管理係長	月末休館日の変更 ・ 月末の館内整理日（図書整理、レイアウト変更等）が土日祝日にあたる場合でも、そのまま休館していた。 ・ 利用者の多い土日祝日は開館し、館内整理日を平日に振り替える。 年末年始等の職員の出勤体制の制度化 ・ 年末年始（例：12 月 28 日や 1 月 4 日）が休館日かつ館内整理日にあたる場合、職員の出勤は任意であり、少人数で作業を行っていた。 ・ これらの日を正式な館内整理日と位置づけ、職員が出勤して作業を行う体制を制度として確立したい。

	蔵書点検（特別整理期間）の定例化 5 年に 1 度、システム更新時に一斉の蔵書点検（棚卸し）を実施していた。 - 毎年、閑散期に特別整理期間を設けて蔵書点検を実施する。これにより、資料探索時間の短縮や不明本の削減を図り、所蔵管理の精度を向上させる。郡山市以外の県内 13 館では既に実施されている。 団体貸出の区分見直し - 団体の規模に関わらず、一律で 1 団体 300 冊まで貸し出していた。 - 団体の規模に応じて貸出冊数を区分する。「一般団体（300 冊）」「中規模団体（150 冊）」「小規模団体（50 冊）」の 3 区分を設ける。 ・施行予定日： 令和 8 年 4 月 1 日。今後、教育委員会の定例会に上程し、承認を目指す。
	(質疑)
杉本委員	貸出停止処分のみで、延滞金などの措置は取らないのか。
橋本係長	現時点では延滞金の導入は予定していない。2 ヶ月以上の延滞者には督促状を送付した上で、貸出や予約を停止する措置を取る。
菊池議長	規則改正により、長い年末年始休館が発生するのか。
若穂図書館長	- 利用者から見た年末年始の休館期間（年末 4 日間、年始 4 日間）は従来と変わらない。今回の改正は、職員の働き方に関する内部的な体制変更が主である。 - 暦の関係で、直近の年末年始は 10 日間の休みとなる予定。

(2) 協議事項	
「第5次郡山市子ども読書活動推進計画」の策定について	
サービス係長	- 事務局(橋本係長)は、本計画の策定状況について説明。 - 計画策定にあたり、2月3日から3月4日までの約1ヶ月間、パブリックコメントを実施。 - 意見は特に寄せられず、計画案は前回提示された内容から大きな変更はなかった。 - 年度の記載や表現など、文言の微修正のみ実施。 - 最終版では、委員の名前が最終ページに記載される予定。 - この内容を基に計画を発展させていく方針であり、現時点での意見が求める。
(質疑)	
菊池議長	計画資料を公開する際の配色について。
橋本係長	- 計画は主にウェブサイト上でカラーで公開される予定。 - 印刷して使用するケースも考慮し、白黒で印刷しても読みにくさがないような配色とする。 - 現在の色使いはシンプルだが、このままの形で公開される見込み。
菊池議長	計画の実効性を高めるため、具体的な取り組み事例をまとめたハンドブックの作成を提案。 - 計画の目標達成には、具体的な実施が重要であると指摘。 - 特に「地域の人たちと一緒に」という点に関して、計画には言葉としての記載はあるものの、もう一步踏み込んだ具体例が必要だと述べる。 - 他の地域での成功事例(例：活動時間、対象者設定の方法など)があれば、それを参考にしやすくなる。 - 学校司書がない学校でも、具体的な手引があれば一点からでも実践できる可能性があるのでは？
橋本係長	- 郡山市図書館として司書等を対象とした研修会を毎年開催している。 - その研修会の中で、図書館や学校図書館が取り組んでいる良い事例を紹介し、共有する場を設けることを検討している。 - これにより、他の担当者が「どのように活動しているのか知りたい」というニーズに応えることを目指す。
菊池議長	特に対象年齢が低いほど、横展開(事例共有)を増やしていくことが重要であり、子どもがスマートフォンを触る前に本に親しむ活動の推進をすることが大事。
古河委員	計画書内で「障害」という漢字表記と「障がい」というひらがな表記が混在している。 例：1ページの「郡山市障害者福祉プラン」では「障がい」、5ページの法律名では「障害」と記載。
橋本係長	- この言葉は、国や県の第5次計画で使われている用語に準じた。 - 意図としては、障がいを持つ子どもや、母語が異なる子どもなど、様々な背景を持つ子どもたちを含んでいる。

	読み手が理解しやすいように、括弧書きで具体例を示すなどの注釈を追加して見直す方針。
中島委員	4月以降は計画をさらに一歩進めた具体的な行動が求められると思う。
若穂図書館長	- 計画の実行が最も重要であるという認識を共有している。 - 今回の計画では、図書館だけでなく、地域や学校といかに連携を取ることが特に重視されている。 - 課題として上がっている「学校図書館との連携不足」を解消するため、図書館側から積極的に働きかけていく方針。 - お話会などの既存事業に加え、様々な情報発信を強化し、予算の範囲内で実行していく
吉田委員	アンケートで、読み聞かせをしている学校が令和元年度から令和7年度にかけて減少している理由は何か。
橋本係長	- 実施場所の詳細はアンケートでは把握できていないが、おそらく小学生向けの活動の割合が高いと推測。 - 活動が減少している背景には、学校司書の業務内容の変化（例：GIGAスクール構想関連業務の増加など）により、時間が確保しにくくなっている状況があるのではないかと感じる。
渡部委員	読み聞かせには子どもの興味を引きつけ、話を聞く姿勢を育む大きな力がある。
菊池議長	- 学校、地域、図書館が共通で「これを大事にしてみんなでやってみよう」という具体的な重点目標を一つ設定し、大々的に発信してはどうか。 - 各々が多様な実践を持ち寄るだけでなく、全体で一つの目標に向かって取り組むことで、より大きな動きを生み出せるのではないかと考えが示された。
橋本係長	新設された分館では、まだ「おはなし会」などを実施できる環境が整っていない。 - 令和9年度からボランティアを配置し、段階的におはなし会を開始する計画である。 - 目標として、市内のどの図書館でもおはなし会が実施されている状況を作り出すことを目指している。
石田委員	図書館利用促進のための広報活動に関する課題認識。 現状、おはなし会への来館者が非常に少ないという課題がある。
橋本係長	広報こおりやまや図書館だよりを発行し、学校等へ配布しているが、情報に関心のある層にしか届いていない可能性がある。 - より広範な層にリーチするため、LINEなどの新しい広報手段の活用が今後の課題として認識されている。 - 周知がうまくいけば多くの来館者が見込めるが、現状では来館者数が安定していない。
鈴木(祐)委員	現代のライフスタイルに合わせた魅力的な図書館づくりの必要性。 スマートフォンの普及により、人々が読書から離れている現状があり、従来の図書館運営は難しくなっている。

菊池議長	成功事例として佐賀県の武雄市図書館が挙げられ、蔦屋書店との連携により、平日でも多くの人で賑わっている。 ・ 武雄市図書館は人口が郡山市より少ないにも関わらず、駐車場は満杯で、中高生や親子連れなど多様な利用者がいる。 ・ カフェや子供向けコーナー、別棟の子供図書館など、複合的な施設として人を集める仕組みが構築されている。 ・ 現代の図書館は、本を読むだけの場所ではなく、カフェや他の店舗を併設したエンターテインメント性のある複合施設へと変化している。 ・ 図書館が主目的でなくても、他の目的で訪れた人が図書館の魅力に気づくという流れを作ることが有効ではないか。 ・ 来館の動機付けを高めるためには、単に本を置くだけでなく「子供にとって面白そうな場所」というイメージを創出することが重要である。 ・ 全国の成功事例からヒントを得て、予算の範囲内で取り入れる努力が必要である。市民の間で図書館活性化の機運が高まれば、改修予算の確保にも繋がる可能性がある。
菊池議長	これまでの取り組みの評価と今後のアクションに関する提言。 ・ 第4次計画から第5次計画へ繋げるための詳細な分析とアクションの積み重ねが評価された。 ・ 一方で、現状維持から次のステップに進むためには、より多様な意見を取り入れ、新たなアクションや場を広げる必要がある。 ・ 特に子供向けの施策として、保護者へのアプローチが重要である。 ・ 例として、1歳児検診などの機会にチラシを配布するなど、積極的に情報を届けるべきとの意見があった。 ・ これまでの詳細な取り組みや背景が市民に伝わっておらず「もったいない」状況であるため、より効果的な周知方法が求められる。 ・ 今後5年間（令和10年まで）を見据え、短期的な目標を設定し、ポイントを絞って改善を繰り返していくアプローチが提案された。
赤沼副議長	乳幼児向け事業の現状と予算の課題。 ・ 現在、生後2ヶ月から5ヶ月の第一子を対象とした事業を年間6回実施している。 ・ この事業は、子供が本に触れ合うきっかけとして評価されているが、対象が限定的である。 ・ 他の自治体では予算を確保して本を配布する事業（ブックスタートなど）を行っている例もあるが、現状では予算が課題となっている。
杉本委員	学習スペースの利用環境改善による来館者増加の実績。 ・ 他の図書館の事例として、持ち込み資料による学習や蓋付き飲料の許可が、中高生のグループ利用を促進しているとの情報が共有された。
若穂岡館長	現在の図書館では、すでに一部のエリアを除き、キャップ付き飲料や持ち込み資料による学習を許可している。 ・ この環境改善の結果、学習席・閲覧席の利用者数が大幅に増加した。 ・ 具体的には、利用者数が前年同月比で約60%増加（例：2月期で前年2,400人に対し、当年4,000人）し、穴場スポットとしての認知が広まりつつある。
菊池議長	学習スペースの利用が許可されていることを学校などを通じて積極的に告知すれば、さらなる来館者増加が見込めるのではないかと

若穂図書館長	• 平日の放課後時間帯などの利用者数を増やすことが課題として認識されており、情報発信の強化が必要である。 • 全体の入館者数は増加傾向にある（例：1 日平均で前年約 1,000 人に対し、当年約 1,900 人）。 • 一方で、本を借りる人の数（特に新規利用者）は増加しておらず、「来館はするが本は借りない」という状況が課題となっている。 • 貸出冊数の上限を 5 冊から 10 冊に増やしたことで貸出総冊数は増加したが、利用者数の拡大には繋がっていない。 • 施設の改修については、築年数の問題で優先順位が低く、5～6 年後の検討とされている。 • それまでの間、公共空間としての図書館を有効活用してもらうための意識醸成に引き続き取り組んでいく方針である。
吉田委員	他図書館で「読書通帳」による履歴の可視化が導入されている。郡山市で導入予定はあるか。
橋本係長	• 10 月から更新された新システムには、目標冊数と現在の読了冊数を可視化する「読書マラソン」機能が搭載されている。 • この機能の存在を知っている一部の利用者は使用しているが、まだ図書館主催のイベントなどには連携できていない。 • この機能は紙の通帳のような物理的な記録ではなく、ウェブサイト上で確認するシステム上の履歴である。 • アクションアイテム：@[担当者] - 新システムの「読書マラソン」機能について、より広く利用者に周知し、活用を促進する。
菊池議長	廃棄予定本を希望する団体に譲渡し、地域内での再利用を促進してはどうか。 • 破れや汚れにより廃棄対象となった本（特に絵本）について、希望する団体に譲渡し、地域での再配布を代行してもらうことはできないかという提案があった。 • 提案の背景として、個人的に不要な本を玄関に「ご自由にどうぞ」と置くと無くなる事例があり、本を購入するほどではないが興味を持つ層へのアプローチとして有効だと考えられている。
橋本係長	• 図書館側は現在、リサイクルイベントとして個人に除籍本を譲渡している。これを団体に広げることについては、様々な点を検討する必要があるが、可能性はあるかもしれない。
菊池議長	本に触れる機会を増やすことが読書活動推進の第一歩であると強調。 • 読書推進の目的は、まず本と触れ合う時間を増やすことであり、それが図書館訪問などの次のステップに繋がる。 • 特に、普段本に触れていない大人が本を手に取り、読んでいる姿を見せる活動から始める必要がある。 • 例として、新聞紙を使った遊びを企画すると、子どもたちが新聞自体に興味を持つようになることが挙げられた。遊び道具としても、まず「触れる」という機会を増やすことが重要である。
橋本係長	• 本日協議された意見を反映した最終案を 27 日に教育委員会へ報告し、新年度計画は 4 月 1 日にウェブサイトで公開される予定である。 • 本日の会議で出された意見のうち、反映可能なもの（色味の調整などを含む）を取り入れ、計画の最終案を作成する。 • 主要な決定事項：最終案は、27 日に教育委員会へ報告される。

	• 主要な決定事項：確定した計画は、4月1日にウェブサイトで公開される予定。 • 公開後は、特に学校や地域活動団体と連携し、計画内容（特に特定のページ）を閲覧するよう情報発信していく必要がある。
4 その他	
事務局	• 転出者・退職者に関する報告があった。 ○若穂図書館長が産業雇用政策課長に異動、ほか。 • 来年度からの転入者についても報告され、中央図書館および各地域図書館に新たな職員が着任する予定。来年度の審議会には新しい担当者が出席し、説明等を行う。 クローバー子ども図書館分室が文部科学大臣表彰を受けることが報告された。 • 医療法人仁寿会菊池医院が運営するクローバー子ども図書館分室が、令和8年度の子ども読書活動推進の実践団体として、文部科学大臣表彰を受賞することが決定した。 • この受賞は、日頃の優良な活動が国に認められた結果であると報告された。 • 菊池医院の院長は、菊池信太郎議長である。 来年度の審議会では、国が示す新たな指針を参考に図書館のあり方を検討していく方針が示された。 • 来年度の審議会の進め方として、国が有識者会議でまとめた最新の報告書「図書館が開く未来の学びと地域社会」を参考にすることが提案された。 • この報告書では、図書館が「地域のハブ」「学校の中心」となり、公共図書館と学校図書館を融合させながら図書サービスを構築していく方向性が示されている。 • 報告書で示された図書館の今後の機能と役割は以下の通り。 ○「読む、集う、学ぶ」を通じた「地域共創」の拠点。 ○ 利用者の自主的・自発的な学習活動の支援。 ○メディア情報リテラシー教育やサードプレイスとしての取り組み展開。 ○ 個人学習スペースやコワーキングスペースの充実。 • これらの指針と、既存の運営方針を組み合わせながら、郡町図書館としてどのようなサービスを進めていくかを次年度に検討していく。
終了	
	• 今回で任期終了となる杉本委員からの挨拶があった。 • 来年度の会議進行については、後日改めて委員へ連絡される。 • これをもって第4回郡山市図書館協議会は閉会(午後4時25分終了)。